岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　［電子］［災害対応No.42］井原地区　平成30年7月豪雨災害に伴う応急対策業務

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.B-1	調査位置	広島市安佐北区白木町井原　神ノ倉山	北緯	34° 35’ 14.5623″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	平成30年 9月 7日～平成30年 9月13日	東経	132° 41’ 28.0401″
調査業者名		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	455.62m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	24.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦地下工機D1-B48型
					エンジン：ヤンマーディゼルNFD-13　ポンプ：東邦地下工機BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD (%)	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度－N値図	N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
	455.22	0.40	CH-S	砂混り粘土	茶								GL-0.00～0.40mは表土で砂混り粘土。植物根を混入する。 GL-0.40～7.50mは、崖錐堆積物。全体的に粘性分を含む。砂は細砂主体、礫はφ=2～10mm程度の角礫。																		
1			GM-S	砂混り粘土	茶																			500		S/MC	0.3	60			
	453.82	1.80																											0.0	W1 0.0	0.0
2																															
3																															
4			S-C	粘土混り砂	茶褐									9/10 4.10									9/7	450	66/ケーシング		0.3	60			
5																															
6	449.32	6.30											GL-6.00～7.00m間で漏水を確認した。													HW/DI	0.0	120	0.2	W3 10.0	0.0
7	448.12	7.50		礫混り砂	茶褐									9/11 7.20									9/8								
8	447.52	8.10		風化斑レイ岩	灰褐	w5	h1	E	VI	d	D		GL-7.50m以深は、基盤岩。 GL-7.50～16.60mは風化斑レイ岩。DL～DM級とDH級のコアを繰り返す。 DL～DM級のコアは土砂状を呈し、指圧で容易に変形する。また割れ目は不明瞭である。 DH級のコアは、比較的硬質で軟岩程度である。																		
9											D																				
10	445.62	10.00																									0.1	120	0.2	W3 10.0	5.0
11								D		c	D		GL-10.50m及びGL-12.50m付近で一時的に漏水を確認した。																	
12	443.42	12.20											GL-12.20m～12.90m間にて、コアは軟質化する。																		
	442.72	12.90									D																				
13														9/12 13.35									9/10								
14								E		d				9/13 14.10																	
15											D		GL-14.40m付近にて粘土層を確認した。すべり面と想定される。																		
16	439.72	15.90											GL-16.00m付近にて一時的に漏水を確認した。													HW/DI	0.1	120	0.0	W3 10.0	3.0
	439.02	16.60						D		c	D																				
17	438.42	17.20		斑レイ岩	灰	w4		C	V		CL		GL-16.60～24.00mは、CL～CH級の斑レイ岩。（一部でDH級） GL-16.60～20.30mにおいて、コアは新鮮かつ硬質で軟岩～中硬岩級にて採取される。 GL-20.30～24.00mにおいて、コアは硬岩（CH級）にて採取され、非常に新鮮かつ硬質である。 GL-18.00～20.00m間にて漏水を確認した。 GL-18.30～18.90mにてコアは礫状を呈す。風化が強く、軟岩程度である。																		
18	437.32	18.30				w3			IV	b	CM																				
	436.72	18.90				w5		D	VI	c	D												9/11								
19																											0.1	120	0.0	W3 10.0	0.0
20	435.32	20.30				w4		C	V		CL																				
21						w2		B	IV	b	CH																		0.3	W3 10.0	5.0
22																							9/12				0.2	150			
23																													0.2	W3 10.0	5.0
24	431.62	24.00																					9/13								
25																															